

社会福祉法人 子供の町
理事長 田中文男

「子ども達と共に」

どこの家の子でも「つまんねエヤ！」という言葉をよく口にします。今年の夏、「それじゃ、どうしたいの？」とうちの子（施設の子）に尋ねました。「外食で、美味しい物を食べたいよ」という答えでした。正直なところ、決裁のため施設を訪れた時、昼食や夕食のテストメニューを食べさせられ、あらゆる角度から意見を求められますが、いつも満点近い美味しさです。しかし、子ども達は変化が欲しいのでしょうか。その言葉が「外食をしたい！」と言う願望だったのかもしれませんが。

「じゃ、今度連れて行くよ」と約束したら、顔を輝かせて「本当！」と言ってくれました。しかし、失敗したと思いました。私が一番嫌いなことは、不平等ということです。ひとつの寮だけの子と外食するわけにはいきません。全部の子と、寮舎の職員全部を連れて行くことにならざるを得ません。しかし、いつもの癖で「ま、いいか」と決心をしました。最初は 5A 寮。ケーキが美味しいというイタリアン・レストラン。どこのお嬢さんかと思われるくらい綺麗な洋服を着て、可愛らしく、明るい本当に楽しい夕食会でした。

次は 3 寮で焼肉の食べ放題のレストラン。男の子が気を遣って、私の分も沢山焼いてくれました。

3 番目はもう少し上等の韓国風レストラン。価格に関係なく沢山注文し、本当に満足そうでした。

4 番目は、有名な回転寿司屋さん。私の懐具合いを気にする風もなく、山ほど皿を重ねてくれました。幼児が自分の口に合わなかったのでしょうか。少しかじって、残りを女子職員に渡しました。あるいは「美味しいから食べてみて」のつもりだったのかもしれませんが。若い保育士さんは、ためらわず自分の口で受け取り、指に付いている御飯つぶまで、ひとつひとつ口で取ってやりました。その仕草は、母親そのものの姿でした。半分口に入れた物でも笑顔で受け止めて、食べてしまう。ずっと昔の、妻の姿を思い浮かべました。いつ採用したのかと思って尋ねたところ、まだ一年半しか経っていません。私は涙が出るくらい嬉しい光景でした。後で他の職員に尋ねましたら「吐くこともあるし、オムツの子もいますから汚物なんて平気です」と言ってくれました。私は本当に幸せな一時を過ごすことができました。

私達は、子ども達の「今」が大事ですが、更に「未来」が大事です。口で食べかけの物でも笑顔で食べてくれる職員は、社会に出たらもういません。自分で考え、自分で行動しなければならない。その基本的な事をしっかりと身につけさせ、社会へ送り出さなければならない。大学でも、専門学

校でも、とにかく生きていく術を身につけて社会に送り出したい。国は 18 歳までしか面倒を見てくれませんが、そこから先もサポートしましょう。だって、それが私達の役目なんです。そして、職員にもここで働いて良かったと言える労働環境を提供したい。これも私達の役目です。

さて、まだ三分の一ぐらいしか食事会は終わっていません。でも、子ども達の笑顔と、思い出作りが出来たと思うと、とても幸せです。

そうそう、齊之平専務が「渋沢栄一賞」という立派な賞を頂きました。その祝賀会会場で、私は声を大にしてお願いしてきました。「とてもいい子ばかりです。是非就職についてもご協力を」と。

家庭引取は夢物語！？

子供の町 施設長 根岸 昇

多くの子どもたちにとって、いつの時代も「夏休みは特別な時間」です。私の子ども時代の夏休みは「3 年おきに転校する時期」としての思い出が何よりも心に深く残っています。転勤族であった父親の転勤に伴って家族で転居していました。小学 2 年の夏は茨城県古河市から北海道根室市へ、小学 5 年の夏は根室市から新潟県三条市へ転校しました。夏休み中の転校でラッキーなことは宿題から解放されることで、私の大嫌いな読書感想文を免れることは有難かったことを覚えています。しかし、新天地では遊ぶ友達もいない夏休みとなり、始業式には転校生として挨拶し、みんなからジロジロ見られるのが辛かった記憶があります。中学校は三条市・長野県小諸市・千葉県銚子市の 3 校に通学しました。

施設で暮らすことを余儀なくされた子どもたちにとって、夏休みは本当に特別なのです。もちろん、夏休みならではの学年別の外出企画もあります。海水浴・ラフティング・ペンションや民宿での宿泊など。しかし、何より特別なことは「家庭

や親族宅への帰省」です。

今や家庭とのつながりのあるケースは在籍児童の 7 割近くを占めますが、実際に帰省出来るケースは 3 割程度です。子供の町・エンジェルホーム合せて、今年の夏休みに親族宅に帰省出来たのは 51 人（在籍 151 人中の 33.8%）でした。中には 1 泊だけ 4 人、10 泊～20 泊 13 人（25%）という偏りがあります。

帰省出来ない一番の理由は「被虐待等で児童相談所の許可がない」42 人（49%）です。帰省している間の子どもの健康・生命への危険があると判断される状況がある以上、止むを得ないことです。しかし、帰省から帰ってきた子どもたちの得意げな話を聞いたり、お土産の玩具を見せてもらうたびに「寂しさ・切なさ・辛さ・怒り」など複雑な感情が沸き起こることも多々あります。「帰省」がもたらす様々な光景は複雑なトラブルも生み出します。玩具を借りて返さない・壊してしまう、些細なことで相手を叩いたり蹴ったりする、職員の話に耳を貸さず反抗する、何だかわからないがイライラしているなど。これは新学期が始まってからの幼稚園・学校現場でもしばらくは表出されていくものです。

お盆明けの日曜日、10 年位前に家庭引取になった青年と少女たち 2 組が入れ替わりに来園しました。22 歳の青年は外壁工事の仕事に就いていますが、彼の言葉で印象的だったのは「俺さ夏休みに帰省したらそのまま引き取りになっちゃって、俺はずっとここにいたかったのに。」という言葉でした。彼は父親が自分たち兄弟の貯金（施設で貯めていた）を使い果たし生活も苦しく父親ともうまくいかず、中卒前に家を出てしまったそうです。

少女たち姉妹（20 歳・18 歳）も父親と一緒に暮らすようになったが生活保護世帯で、父親も若くして糖尿病・人工透析治療を優先しなければならない生活となり、昨年他界したそうです。隣

駅にお墓があり、一周忌のお墓参りの後に立ち寄ってくれました。妹はアイドルグループで売り出し中とのこと。2組の来訪者に共通していたのは「家庭引取後の生活の大変さ、親子関係の難しさ」そして「知っている職員さんがいないのは寂しい」ということでした。「子供の町」も突然帰って来れる「家庭」であれ！ということでしょう！！

「終わり始まり・・・」

エンジェルホーム施設長 安達雅弘

平成28年度の42日間の長い夏休みが終わりました。幸いにも子ども達、職員とも事故や怪我もなく無事過ごせることができました。本当にお疲れ様でした。そして、職員の方々、並びに関係各位の方々にとただただ感謝でございます。ありがとうございました。

さて、近隣の田んぼは稲刈りが始まり、2学期がスタートいたしました。どんな物事においても始まりがあり、いつの日か終わりが必ずやってきます。そんな物事における常の中で、夏休みに行われております球技大会について、当園の取り組みを含めて少し振り返って見たいと思います。

現在行われている球技大会（ソフトボール）の前身は県主催の球技大会（男子は野球、女子は卓球）でしたが、県主催行事が廃止になり一時中断、その後施設の自主的な運営の中でソフトボールとして再出発（平成11年）し今年で17回目を迎えました。そこには40年以上の歴史が流れている大会になるわけです。私自身も野球の時代から35年近く施設のコーチ・監督として携って 왔ましたが、さすがに体力の限界を感じ4年前から後進にその座を譲りサブ的に関わりをさせてもらっています。野球の時代は4連覇した時期もありましたし、ソフトボールになってからは優勝4回、準優勝4回と今でもその時の光景は脳裏に色濃く

残っております。

当園は伝統的に休日の早朝に練習（朝練）をしています。期間は5月の連休明けから8月の大会後位でして、以前はAM5時からで現在はAM6時からです。施設内にはグラウンドがなく、小学校の校庭が使用できるのが早朝のみしかありません。また、野球部所属の児童も極めて少なく、中高生の多くは部活動があり、その時間帯にしか児童が集まらない現状があるからです。

目標は施設球技大会で優勝することですが、目的は生活指導の一環であり競技を媒介にしての「人作り」であることを言い続けてきました。ほんの少しでもいいのです。その子の人としての成長が垣間見られれば、それでいいのです。勝ち負けは二の次です。日常生活とスポーツは深く繋がっています。上手くなりたければ「生活を何か一つでもいいので変えてみなさい」が私の口癖であります。さほどレベルの高くない球技大会ですが、「されど球技大会」なのです。勝つことはそう簡単にはいきませんし、勝てばまたそれでいいわけでもありません。そのプロセスがどうであったかが大切ではないかと思うのです。

卒園した子ども達から、朝練や球技大会がとても印象的であったとの声を聞くことがあります。それは携わってきた者としては本当に嬉しい限りです。また、子ども達が私を引っ張ってくれて、いい思い出をたくさん頂けたことに感謝するとともに、陰から支えて頂いた職員さんにも深く感謝いたします。

施設球技大会もいつの日か終わりを迎える時が来て、新たな始まりが訪れるでしょう。でも、携わる者の魂は生き続けていってほしいし、受けつないでいてほしいと願っております。



夏季活動

寮主任 菅野 貴

長い夏休みの中で、子ども達が楽しみにしている行事の一つが夏季活動です。

海にプールにバーベキューと夏らしい活動がめじろおしです。初めての体験をした子どもも多く、夏休みの大きな思い出になってくれれば嬉しいです。

- ① 1年生「アンデルセン公園」7名参加
- 2年生「相模原・桐花園」5名参加
- 3年生「那須ペンション風の詩」8名参加
- 4年・6年「民宿・魚一」22名参加

楽しかった夏季活動

小1 M.優菜

わたしは、7月25日にアンデルセン公園に行きました。水で遊びました。かのんちゃんと浮き輪で泳いだ事が楽しかったです。長い滑り台で岩井さんと滑りました。お尻が痛くなってきました。岩井さんのカメラで撮ってもらいました。

小1 H.勇斗

アスレチックがとても楽しかったです。ボールで遊びました。あと滑り台で遊びました。あと丸い滑り台で遊びました。あとグラグラしているやつで遊びました。水遊びで、こうや君と遊びました。あとひかる君とも遊びました。あと、今ノッチが押してくれました。楽しかったです。

小2 I.一颯

ぼくは、夏季活動にあってプールが楽しかったです。なぜかという、流れるプールとか水が出ているプールとか、スライダーと大波のプールとかいっぱいありました。波のプールはどんどん深くなっていきます。波に揺られて楽しかったです。スライダーは勢いがあったて楽しかったです。何回も乗りました。また行きたいです。

小2 A.健太

僕は、8月7日から8日まで夏季活動に行きました。1日目は1万人プールに行って遊んで、昼におにぎりを食べました。ホテルには夕方着きました。夜ご飯は、豪華でした。その次は、ビンゴをやって、ヨーヨーをもらいました。楽しかったです。次の日はこども総合科学館に行きました。星や恐竜のことがわかりました。楽しかったです。

小3 S.詩音

夏季活動で楽しかったことは、一番はプールです。どうしてかという、皆で喧嘩もなく仲良く遊べたからです。ペンションでは、大きな声で挨拶が出来て良かったです。1日目の夜は、ナイトサファリが楽しかったです。2日目は、牧場に行き、羊ややぎに餌をあげました。最初は、エサをあげるのにとっても緊張したけれど、羊ややぎたちと仲良くふれあえたのでとても嬉しかったです。



小3 S.優生

僕は、小3の夏季活動に行きました。一番楽しかったのは、プールです。スライダーとか色々な物に乗れて嬉しかったです。黄色のスライダーは短くて、青色のスライダーは、長くて内が虹色みたいになっていました。1日目にはプールとナイト

サファリとペンションです。ペンションには色々な物がありました。夜・朝は豪華な料理だったしよかったです。2 日目は、動物を見たりして楽しかったです。

小 4 N.賢治

僕は、海へ行ったときは楽しそうに行きましたが、海の波が激しかったです。

夜に楽しかったのが、線香花火です。夜ご飯の時もビンゴをやって楽しかった。寝る前にトランプをやったので楽しかったです。

二日目の朝の散歩も楽しかった。

二日目の海も波が一日目より上がってきていたので深さが全然届かなかったのでびっくりしました。また、再来年に 6 年生で行くのがとても楽しみです。



小 4 K.歩

夏季活動に行ったときの思いでは、二つあります。一つ目は、夜花火を見たときに、星が見えました。夏の星、大三角を見てみたいと思ったときに見れたのでよかったです。二つ目は、ビンゴで景品が当たったときです。ビンゴで少ししか景品が選べなかったけど、ビンゴが当たったので嬉しかったです。来年の夏季活動も楽しみです。

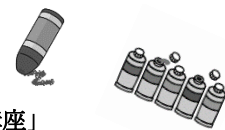
来年の時は、一回払いできるようにしたいです。

小 6 A.美咲

私が、夏季活動で楽しかったことは、二つあります。一つ目は、海で遊んだことです。浮き輪で、プカプカ浮いたのも楽しかったけれど、サーフィンボードで波にのったことです。二つ目はビンゴです。4 年から 3 人と、6 年から 3 人ずつ景品がもらえただけ、トリプルリーチなのに、ビンゴにならなくて惜しかったなーと思いました。景品はもらえなかったけれど、楽しかったです。夏季活動は今年が最後だけでも夏休みのいい思い出になったと思います。

小 6 H. 京花

私は、今回の夏季活動に参加して一番友達と仲良くなれたことが良かったと思います。あまりはなしをしたことがなかった人とも、ウノやトランプを通して仲良くなれました。また、海に入ってやったことがなかったサーフィンボードをやって大人とも仲良くなれました。最後の夏季活動で、少し寂しいけれど、楽しかったです。夏季活動で仲良くなれた友達とは、学校でもしゃべろうと思いました。本当に楽しかったです。



「こまちアート夏期講座」

寮主任 本澤 昌子

8 月 7 日に、「こまちアート夏期講座」を行いました。「こまちアート」とは、日本臨床美術協会講師や東京家政大学保坂准教授にご協力頂き行っています。創作活動を通じ五感を刺激し、感じる事によって「心の解放」や脳の活性化が期待される活動です。通常は月 1 回、固定した 10 名で実施しています。夏期講座は多くの子ども達に体験して欲しいと希望を募り 34 名が参加しました。

午前中は 18 名が「土偶」をモチーフとした作品を作りました。願いを込める石を選び、その後に粘土をギュッと握り始めました。石を粘土に包み込み粘土の素材と対話しながらイメージを広げていました。自分の好きな形を動物・昆虫・船・おばけ等に表現していました。

午後は 16 名が「宇宙」を描きました。まずは宇宙の神秘的な話を聞きイメージを膨らませました。アクリル絵の具や銀箔をふんだんに用いて、色を何色も重ねたり、細かく色を加えていったりと、

一人一人のイメージした宇宙を描いていました。

作品作りの後には鑑賞会を行いました。一人ずつの作品の良さを皆で伝え合い、本人からも作品に込めた思いを聞きました。褒め認めてもらうことに照れくさそうな姿もありましたけれど、子ども達はとても嬉しそうでした。

自分にしか創り出せない表現、世界に一つだけの素敵な作品が完成しました。何よりも子ども達が表現することを楽しんでいたことが印象的な夏期講座でした。



ソフトクラブ活動報告

寮主任 宮城成行

今年度も多くの方々のご声援を賜り、子ども達は一回りも二回りも成長させて頂くことが出来ました。関わって頂いた全ての方々に厚く御礼申し上げます。

今年度のソフトクラブのスローガンは「欲張れ！」です。目の前の仲間には負けないよう練習から貪欲に一球でも多くノックをうけること、一球でも多くボールを打つことにこだわってきました。春先には自信がなく弱々しかった子ども達も、夏

前になると「あいつには負けたくない」という気持ちが芽生えてきました。本大会では、残念な結果に終わってしまいましたが、活動を通して培った「自信」「闘争心」を寮での生活や学校生活に活かしてほしいと願っています。

私自身は、ソフトクラブの監督を任されて早 4 年となります。毎年のように宣言していますが、来年こそは優勝して子ども達に勝つことの喜びを味あわせてあげたいと思っています。

「ソフトクラブを経験して」



中 2 K.晴稀

僕は今年の夏からソフトに入れてもらいました。毎年やっていた皆は自分より上手で目標を持っていました。なので、僕も目標を決めました。「この中の誰よりも上手くなって試合に出る」というものです。その目標に向けて合宿に行きました。とても辛かったけれどこの合宿によって体力やメンタル、仲間との絆が深まりました。そして、試合当日に僕はスタメンに選ばれました。とても嬉しかったです。来年もこの仲間とソフトをしたいと思いました。

「来年こそは」

中 3 S.和樹

僕が所属しているソフトボールクラブでは、子ども 21 名、大人 4 名で活動しています。去年の大会では、あと一步で優勝できませんでした。なので、今年こそは優勝していい思い出が作れたらいいと思いました。練習では、大人を含め汗水流し一所懸命練習をし、ついに試合当日を迎え練習の成果を出すときがきました。僕たちは開幕戦で、相手はケヤキホームでした。試合の結果は 4 対 6 で負けて悔しかったので、来年こそ優勝を飾れるよう頑張りたいです。



夏の思い出

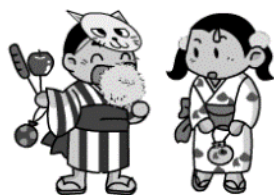
児童指導員 橋本直樹

4年目を迎え、今年の夏は沢山の経験を積むことが出来た。その沢山の経験の中で心に残っている事は、施設の行事としての「夏季活動」「親善球技大会実行委員」「夏祭り」を責任者として活動させていただいたこと。寮では今年から始めた体育館での「スポーツレク」や寮の前での竹を組み立て作って行った「流しそうめん」です。その中でも特に心に残った事について書きたいと思います。

一つ目は施設行事として初めて責任者を任された「夏祭り」です。これまでの夏祭りを参考に考えていましたが、思うようにいかず悩む時期がありました。しかし先輩職員から沢山のアドバイスを頂き、無事に夏祭りを終えることができました。一人で悩んでばかりではなく、沢山の方の力を借りながら進めていくことが物事を上手にやっ行くのに重要だと学びました。

もう一つは寮の事として、竹を組んでの「流しそうめん」が心に残っています。普段は外出先等でやることもありましたが、みんなが生活する場での流しそうめんは、寮の職員だけではなく、いろんな職員と子ども達が触れ合う事ができ、とても充実した時間だと感じました。

今年の夏は良かった点、反省するべき点を沢山見つける事ができ、自分にとってとても成長を感じる年になりました。これからも沢山の事を経験し成長していきたいです。



子供の町あれこれ

- ◆ 夏休み中もR君は幼稚園に通っています。いつもと違うのは、毎日職員が送迎していること・お弁当を持っていくこと、そして幼稚園に行くのがR君だけだということです。担当職員からの提案があり、施設長が了解したものです。「この子は幼稚園をととても楽しみにしており、寮にいと不安定さから他児とのトラブルや職員への試しの言動が多く、本人にとっても寮にいと辛そうだから・・・」とのことでした。幼稚園の先生に相談したら「キリン組に來させて下さい」ということで参加を決めました。8月末まで日・祭日台風休園以外は登園したそうですが、さすがに本人も休みたくなったそうです。施設ではどうしても「公平・平等」「一律」という論理が優先されてしまいがちですが、「特別扱いることが子どもの心の癒しや満足感・自己肯定感を育むことにつながる」のではないのでしょうか。
- ◆ 園内には数か所ミニ農園があります。児童棟の前庭や児童棟・管理棟の間の狭い土地を利用しています。今年も4月から5月にかけてジャガイモ・ミニトマト・きゅうり・なす・さつまいも・いんげん等の苗を植えました。夏休みは待ちに待った収穫時期です。保育室の2才児4人は自分で取ったミニトマトを昼食に食べました。きゅうりは久喜市の農業体験ボランティアの方に苗をいただいて一緒に植え付けたものです。とても優秀な苗3本から約50本の美味しいきゅうりが収穫できました。多くの寮舎の子どもたちがミニ収穫体験を楽しみました。男児寮で西瓜が美味しくできたのにはびっくり！！

◆一般社団法人「日本ES開発協会」のご協力によりパソコン（埼玉県学習環境改善事業補助金で購入）を利用した英会話教室を始めました。日本人の英語講師によるクイズ形式の英会話のほか、ドイツ人Rさんとのスカイプを利用した通信による英会話教室が子どもには好評です。パソコンに接続したカメラを通してドイツにいるRさんとお互いの顔を見ながら交信しています。小3年のK君が野菜の名前を英語で答えるクイズに全問正解したことには驚きました。「なす」は英語で「eggplant」K君 すごい！！



◆当法人の齊之平伸一専務理事（三州製菓株式会社代表取締役社長）が渋沢栄一賞を受賞され、記念講演会・名刺交換会が「春日部ふれあいキューブ」で行われました（8月19日）。当日は石川春日部市長・会田市議会議長をはじめ国会議員・県議会議員・市議会議員の方、市内事業所の方、市民の皆さん約260名の参加がありました。席上、実行委員会高橋昌男会長より田中文男理事長に寄付金目録の贈呈があり、30日の報告会で33万円の御寄附を頂戴しました。今回は齊之平専務理事のご高配により、春日部市内の事業所経営者グループ「経営革新しよう会」・春日部商工会議所・春日部市役所のスタッフの皆さんとのご縁が出来ましたことを大変心強く思います。同時に、責任の重さも痛感しています。今後とも宜しくお願い致します。(N)

平成 28 年 5 月～8 月までに寄付金および寄付品を頂いた方々（順不同・敬称略）

| | | | |
|------------|-------------|-----------------|--------------|
| 株式会社アイエヌジー | (株)コストコ新三郷店 | (株)みのや | 山口 栄一 |
| 青木 梢 | (株)ゴルフ・ドウ | ブルーベリー岩本農園 | 山崎 則子 |
| アットホーム | シフォンママ工房 | グローバルファミリー | 楽園 南越谷店 |
| 荒木 嗣則 | 清水 ハマ | 倉島 紀子 | (株)リバティエステート |
| 岩村 哲 | 鈴木 一男 | (株)三井住友海上火災保険 | |
| 内堀 陽二 | 太平グループ | (有)瀬田工業 | 匿名の方々 |
| 大武 二郎 | 内牧夢ランド | 中村 美雪 | |
| 大村 美由紀 | 平方夢ランド | 中村 梨園 | |
| 大森機械工業(株) | 杉戸夢ランド | 名倉 美恵 | |
| 小野寺 祥一 | かすかべ夢ランド | 新田 裕美 | |
| 柿沼 しのぶ | 太平プレイランド | 農家支援倶楽部 | |
| 菅波 奈津子 | 高柳 淑子 | 道永 優里 | |
| 木ノ根 雄志 | 田中文男 | 村山 拓也 | |
| 栗原 春枝 | チュチュアンナ | 長谷川 浩一 | |
| 小越 丈夫 | 中島 晴子 | (株)フィリップモリスジャパン | |

子どもたちのためにご支援ありがとうございました